

仏様のおはなし新シリーズ第49集その1 「問い」

皆さんは日常の暮らしの中で、「なぜだろう？」という思いをもつことがあるでしょうか？この「なぜだろう？」にも、自分以外のものに思う時と、自分自身に対して思う時と、二通りあるようです。今からお話しするのは、後者の自分自身に対して「問い」をもった友人の話です。

以前結婚式に行った時のことです。お祝いですから楽しくお酒をいただいていたのですが、久々に会った中学校の同級生が、いつになく真剣な面持ちで話しかけてきました。「宗教で人は救われると？幸せになれると？」 私はびつくりしました。よくよく話を聞いてみると、その友人は一流の会社に入り、高収入で結婚もして、最近二人目の子どもも授かり、新居に引っ越しをしたばかりで、周りからはよく「今幸せやろ」と言われるそうです。ただ本人は、幸せを感じるときもあるけれど、どこか心の底からは喜べないと言っています。それは、自分はいつか死なないといけない、そう考えると子どものかわいさを目の前にした幸せも、本当の意味で喜べないということです。その思いのなかで、「宗教で人は救われると？幸せになれると？」という質問をしてきたのでした。

皆さんはどう思われるでしょうか？この若者の「問い」を、ただの考え過ぎ、贅沢な悩み、ネガティブなどと言われるでしょうか。

「問い」は「なぜだろう？」と思うことによつて生まれます。仏教を開かれたお釈迦様も自分自身に対して「問い」をいただき、道を求められたお方です。『仏説無量寿経』には

「老・病・死を見て世の非常を悟る」とあります。自分の命の在りように向き合うとき、友人のように、大きな問いが生まれます。

仏様のみ教えは、私が命の問題にぶつかることを見越して、私の歩んで行く道を明らかにしてくださいています。ただし、そのことを簡単にうなずけないのも私です。ですが、もしそのような「なぜだろう？」、「私の命って？」「本当の幸せって？」という思いをもつご縁にあったときは、ぜひその「問い」を大事にされてください。「問い」こそ人間の証です。ご一緒に仏さまのみ教えに聞いてまいりましょう。

合掌

